

---

暗唱聖句「まず初めに、イエス・キリストを通して、あなたがた一同についてわたしの神に感謝します。あなたがたの信仰が全世界に言い伝えられているからです」 ローマ1：8

---

今週の聖句 使徒言行録28：17～31、ローマ1：7、15：14、20～27、エフェソ1章、フィリピ1：12

---

今週の研究：私たちは想像力を働かせ、時代をさかのぼり、ローマに身を置き、ローマ教会の会衆の一人となり、その一世紀の教会員として、パウロと、パウロが聖霊を通して与えられた言葉に耳を傾けなければなりません。

驚くべきことに、遠い昔、全くことな背景の中書かれたにもかかわらず、本書はあらゆる国の、さまざまな状況にある神の重きびに必要なメッセージを持っています。この意味、私たちは本書に書かれている言葉を祈りのうちに読み、私たちの生活に適用する必要があります。

---

日曜日：パウロは、ローマ人への手紙の中で、福音の大原則を説明しました。彼は当時ユダヤ人や異邦人の教会において議論になっていた問題についての、彼の立場を表明した。

聖書の書巻を研究するにあたっては、それがなぜ書かれたかを知ることが大切です。したがって、「ローマの信徒への手紙」を理解するためには、ユダヤ人と異邦人の教会にどんな問題が持ち上がっているかを知ることが重要です。

---

水曜日：「神に愛され」：神が世界を愛されることは事実ですが、特別な意味で、神はご自分を選び、御自分の愛に応答した人たちを愛されます。愛は応答を要求します。応答が期待されないときには、愛は限られたものとなります。

「聖なる者となった」：「聖なる者（聖徒）」は「聖なる者たち」を意味するギリシャ語「ハギオイ」の翻訳です。すべての者は神の救いは神の救いに招待され、召されているが、その召し応答した人が神に連なりました。

「聖なる者」とは神に連なる者となった者たちであり、神との誠実な愛の関係に入って献身した人々を意味します。

---

木曜日：パウロはローマのクリスチャンの経験に関して注目に値することを3つあげています。

1、「善意に満ち」：私たちも人々からそう言われているのでしょうか。彼らが私たちと交わるのは、私たちの豊かな善意に心が引かれるのでしょうか。

2、「あらゆる知識で満たされ」：聖書は繰り返し、啓発と情報、知識の重要性を強調しています。クリスチャンは聖書を学び、その教えに精通するように勧められています。心の変化には、つねにクリスチャンの義務についての明らかな自覚、真理の理解がともなう。

3, 「互いに戒め合う」：ほかの信者との交わりがなければ、私たちは霊的に成長しません。私たちは人を励まし、同時に人から励まされる必要があります。

---

今期の学びはローマ信徒への手紙です。最後までめくってみましたが、この書簡を一章ずつ学と言うよりも、主題を定めて学んでいるようですね。

序言と、そして今週のテーマにも書きましたが、歴史的背景を理解し当時の教会に何を語ろうとしていたのかを知ることは大切です。その事によってパウロが語ろうとしている真意をつかみ、無理な解釈を防ぐことができます。

同時にその中から今日のわたしたちにも語られていることが多々あるはずですよ。だからこそこの書簡は聖書として残されたのでしょう。

ローマ信徒への手紙の特徴は、パウロの他の書簡は彼の宣教によってできあがった教会でした、ここだけは未訪地だったのです。

けれども16章を見ると、いろいろな人への挨拶が書かれているので、パウロによって導かれた人が当時の政治経済の中心地ローマに集まり、そこで教会が立てられていたのではないのでしょうか。自らが導いた方々が、新しい地で熱心に教会を作り上げている、こんなにうれしいことはありません。

先日、甲府教会を7年ぶりに訪れました。札幌に赴任する前に、八王子教会時代に2年間兼務しました。

当時、それまでの教会堂の移転をしなければならず、自己資金と売却資金では不足していたので、PMMの先生を迎えて、5年間かかる家賃代金を加えて新しい教会を建てることを考えていました。

3ヶ所の候補地がありました。わたしは「神さま、この場所が良いというしるしをください」と祈り、それぞれの候補地の周りで同じだけ返信可能なトラクトを配布しました。返信の最も多いところをと考えましたが、一枚も返ってきませんでした。

そうこうしているうちに、最も良いかなと思っていたところが売れてしまいました。残念な想いで離任して、半年くらい経った時に、その場所を買った方が結局維持できずに同じ金額で手放すことになり、そこを買うことにしたと聞きました。

その場所は、山梨県内の方だったら、だれでもわかる有名な交差点に近く、となりの空き地にも駐車可能な場所もあります。

そして7年ぶりに訪れたら、甲府駅前からの道が拡幅されていて、その道が教会の前まで来ているではありませんか。神さまは、とても良い教会の土地を与えてくださいました。

それ以上にうれしかったのは、当時は礼拝に集まる方は7～8名でした。そのうち4名はお亡くなりになりました。

けれども、先日教会には大人、子どもあわせて30名くらいが集っていたのです。PMMの李先生が心を込めてご奉仕くださった結果ですが、教会が成長している姿を見ることができたのは、こんなにうれしいことはありませんでした。

きっとパウロは、そのような想いでローマに手紙を書いたのかもしれませんが。だからこそローマの教会への書簡の中には他の書簡にあるような譴責するような言葉がみあたりません。そのような成長している教会の姿を学ぶことも、今日の私たちにとって重要かもしれません。